

### 3 3 これまでの教訓を生かして

昨日、延期となっていた「総合防災訓練」を実施しました。地震を想定しての訓練でしたが、近くは北海道胆振東部地震、熊本地震、東日本大震災、阪神淡路大震災、そして 1923(大正 12)年には横浜も大きな被害を受けた関東大震災が思い浮かびます。関東大震災では横浜だけで 2 万 3 千人以上の方が犠牲になられたそうです。



関東大震災直後の横浜駅周辺

東日本大震災では津波による被害、阪神淡路大震災では火災による被害、関東大震災では建物の倒壊等による被害がそれぞれ大きなものとされ、その対策が校内の避難訓練にも反映されてきました。今月号の学校だよりの巻頭文でも触れていましたが、「備えあれば…」ということを念頭におきながら、月々の避難訓練を実施してきていますが「総合防災訓練」ではなおさら様々な想定を意識して取り組んでいます。

手前みそになりますが、釜利谷小学校の子どもたちは、こうした訓練や毎週の朝会など、みんなで集まって話を聞く場面では、本当にしっかりと、話をする人の目を見ながら聞くという態度が身についています。これは何か大きな災害に見舞われた時に、命を守るための大切な行動の一つと考えていますので、毎回感心させられるところです。

自助・共助・公助の話を以前もしたかと思いますが、大きな震災から得た教訓を生かしながら、今回のような訓練を通して自分や周りの人の命を守ることの大切さを子どもたちとともに私たち教職員も学んでいきたいと思っています。